

東日本巨大地震が留学生に与えた影響

—インタビューを通して—

王 敏東・林 益泓・仙波 光明

Impact of 311 Earthquake on Overseas Students in Japan: Interviews

Ming-tung WANG ; Yi-Hung LIN ; Mitsuaki SENBA

Abstract

This study aims at exploring how Japan earthquake on March 11, 2011 affected the overseas students in Japan. This study personally interviewed 15 overseas students (13 Taiwanese, 1 Korean and 1 Chinese), email interviewed 3 Taiwanese students and chatted with one teacher during March-June, 2011. Basically most Japan attendees love Japan and had planned the trips to Japan long before the earthquake. On the occurrence of earthquake most overseas students felt shock. But since they love too much Japan some insisted to stay in Japan subject to real danger there. There are also few people untrusting Japan ever since.

要旨

本研究は2011年3月11日に起きた東日本巨大地震の留学生への影響を調査したものである。具体的には2011年3月～6月に日本に留学していた（またはしている、しようとしている）学生15人（台湾人13人、韓国と中国大陸人各々1人）に対するインタビューをまとめた。また、直接インタビューしたわけではないが、メール等の形で、地震当時日本にいた引率の先生、そして台湾の日本語学科を卒業後ワーキング・ホリデーで日本に行っている人、あわせて4人（いずれも台湾人）の意見も得た。基本的には日本に留学までした学生はもともと日本のことがかなり好きで、今回の地震が発生する遙か前より留学しようと考えていた者が多

い。多くの留学生たちは、何もかもよく見えていた日本で今回起きた地震を、最初は驚き、痛々しく思ったが、心のどこかに蓄えていた日本に対する信頼で、敢えて家族の反対を押し切り自分の夢を追うように留学に踏み切った。それに対して、日本に不信感を抱いた人ももちろんいるが、少数である。

1、はじめに

地理的位置や歴史的なつながりの関係で、日本は台湾、韓国、そして中国大陆と深い関係がある。とくに、半世紀間も日本に統治されていた台湾では 1970 年代後期より「哈日族」と呼ばれている日本最親または日本が大好きな若者が増え、日本ブームとなっていた¹。2011 年 3 月 11 日に起きた東日本巨大地震に対する台湾からの義援金が 170 億円以上にも上ったことから、台湾人が日本に対して友好的な態度を取っているのが分かる²。

ところで、日本の独立行政法人日本学生支援機構が発表した「外国人留学生在籍状況調査—留学生受入れ概況」によると、日本に留学する台湾人留学生は平成 18 年から 21 年まで、前年度に比べて増加し続けてきたが、平成 22 年は 21 年に比べて 35 人 (0.7%) 減少した、という。今回の地震が、留学生の日本へ行きたいという意欲にどう影響を与えるかが興味深い。本研究は、社会学をはじめとする多くの研究で利用されている質的調査のインタビュー法を通して、学生の生の声を記録・検討する。

2、インタビュー調査

この節ではまずこの 15 名の留学生について簡単に紹介する。次は訪問調査の内容（半構造化インタビュー面接の設問）を紹介した後、訪問を受けた者の答えをまとめる。

2・1、インタビューを受けた学生の資料

15 人の学生を対象としたインタビューの実施期間は 2011 年 4 月 15 日～6 月 7 日である。また、この 15 人に関する資料は表 1 の通りである。

表 1 インタビューを受けた 15 人の学生の詳細

番号	国籍	性別	年齢	留学先	留学の身分	専攻（及び主な日本語歴）	地震当時いた場所
①	台湾	女性	二十代後半	山形	交換留学生（大学院生）	日本語	台湾（留学半年後の一時帰国）

¹ 陳 (2009: 1) など。日本にも酒井亨 (2004) 『哈日族 なぜ日本が好きなのか』(光文社) という著書が出版されている。

² 2011 年 6 月 3 日『読売新聞』「台湾に親近感」日本人アップ 震災支援で好感情」など。

②	台湾	女性	三十代 前半	山形	交換留学生 (大学院生)	日本語	日本の留学先の 山形(留学半年後)
③	台湾	女性	二十代 前半	千葉	交換留学生 (学部生)	日本語	日本の留学先の 近くの東京 (日本に行っ て三日目)
④	マレー シア華 僑(台湾 の大学 日本語 学科在 学)	女性	二十代 前半	千葉	交換留学生 (学部生)	日本語	日本の留学先の 近くの東京 (日本に行っ て三日目)
⑤	台湾	女性	二十代 前半	千葉	交換留学生 (学部生)	日本語	日本の留学先の 近くの東京 (日本に行っ て三日目)
⑥	台湾	女性	二十代 前半	千葉	交換留学生 (学部生)	日本語	日本の留学先の 近くの東京 (日本に行っ て三日目)
⑦	台湾	女性	二十代 前半	千葉	交換留学生 (学部生)	日本語	日本の留学先の 近くの東京 (日本に行っ て三日目)
⑧	台湾	女性	二十代 前半	京都	交換留学生 (学部生)	日本語	台湾(留学半年 後の一時帰国)
⑨	台湾	女性	二十代 後半	埼玉	日本語学校 の学生(台湾 で修士号を 取得したが、 日本の大学 院に進学す る予定)	日本語	台湾(日本に行 く直前)
⑩	台湾	男性	二十代 後半	神戸	大学院生(台 湾で修士号 を取得した が、日本の大 学院に改め て進学)	日本語	台湾(日本に行 く直前)
⑪	台湾	女性	二十代 前半	名古屋	日本語学校 の学生(もと 社会人)	企業管理(台 湾の塾で日 本語を勉強)	台湾(5月に予 定通り出発)
⑫	台湾	男	二十代	名古屋	日本語学校	Marine Engineering	台湾(2011年4

		性	後半	屋の 予定	の学生(もと 社会人)	(台湾の大学 の社会人 コースで日 本語を勉強 していた)	月の予定だ ったが、地震の影 響で10月に変更した)
⑬	台湾	女性	二十代 前半	大阪 の予 定だ った	日本語学校 の学生の予 定だった(フ リーター)	情報工学(台 湾の塾で日 本語を勉強)	台湾(2011年4 月の予定だ ったが、地震の影 響で取り消し た)
⑭	中国大陸	女性	二十代 前半	神戸	大学院生	英語(日本の 日本語教育 専門の大学 院で1年間 研究生)	日本の留学先 の神戸
⑮	韓国	男性	二十代 前半	西宮	交換留学生 (学部生)	ホテル管理	韓国

今回は筆者の都合もあり、インタビューを受けた学生のほとんどは台湾人であり、後は中国大陸と韓国とが1人ずつである³。そのうち、女性は12人、男性は3人となっている。年齢は三十代前半の1人を除くと全員が二十代である。また、所属については学部生が7人、大学院生が4人で日本語学校の学生が4人(そのうちの3人はインタビューを受けた時点ではまだ出発していなかった)となっている。地震当時いた場所は母国の他、留学先の山形、関東、関西である。

2・2、インタビューの内容

質問は“描写的”または“解釈的”なもの⁴とする。具体的には「A: いつから日本に留学することを決めていたか。」「B: 留学に行く前に日本へ行ったことがあるか。(もしあったならば、日本にどのような印象を受けたか。))」、「C: 今回はどういう気持ちで日本に留学に行ったのか。」「D: 地震当時の様子を聞かせてください。当時はどういう気持ちだったか。何を考えていたか。」「(地震当時台湾にいた者に「D: 地震のことを聞いた時はどういう気持ちだったか。何を考えていたか。))」、「E: 大きな地震だと知って、留学をやめようと思ったか。」「F: 留学の「中止」または「継続」を決めた主な理由は何か。決定的なきっかけなどがあるか。(たとえば家族の希望、一緒に留学する(していた)友達の意味、地震への怖さや不安など)」、「G: 留学を中止して帰国してから

³ 近年日本における留学生の出身国(地域)別留学生数上位3位となっているのもこの3ヶ所である(常に中国大陸、韓国、台湾の順となっている)。まして、台湾人、中国大陸と韓国は日本の周辺にあり、日本との交流の歴史も長い。

⁴ この2つの性質の設問は現象の状態と意義が探究でき、質的な研究に向いているためである(陳(2002: 28))。

どう思うか。(日本に未練があり、留学の機会が失われたことが惜しいと思うか。それともほっとしたか。)」(留学を継続した者に「G: (放射能漏れ事件を含めて)地震後の留学生生活をどう思うか。(留学を続けても大丈夫だと考えているか、それとも常に余震や放射能漏れのことを心配しているか。))」、「H: 帰国してからしばらくたった今、日本(地震後の放射能漏れ事件を含めて)についてどう思っているか。」、「I: 自分は「哈日族」(日本虜)だと思うか。今はどうか。それはどうしてか。(日本の原子力発電所への対処を含めて)今回の地震で日本に対する感じ・態度が変わったか。(たとえば日本がうまく放射能漏れを止められないせいで、留学をやめさせられた、または台湾にいても放射能の脅威を感じるなどのようなことがあるか。))」、「J: 近々日本に行く予定があるか。(もしあるとしたら、いつ何のために行くか。心配はないか。))」、「K: 日本はこれからどうなると思うか。」となっている。また、インタビューは⑮の韓国の留学生とは日本語で行なった以外、①～⑭とはすべて留学生の母語である中国語で行なった。インタビューの内容は対象者の理解を得て録音し⁵、筆者が改めて文字化したものを2011年4月～2011年7月の間に対象者に確認した。以下、質問A～Kの順で述べていく。

QA: いつから日本に留学することを決めていたか。

今回の留学はどのくらい前より準備しはじめたかを知るための設問である。

- ① 実は小学校高学年か中学の頃から日本の漫画などに引かれて、日本のことが好きになった。こちらの大学に来るまでには親の希望もあり、自分も嫌いでないということから英語を専攻していた。が、日本に対するあこがれが忘れられず、編入試験を通してこちらの日本語学科に入ることになった。大学2年の時に日本の姉妹校などに交換留学生として短期留学する機会があると聞いてから、いつか日本に留学に行こうと思った。しかし、当時は台湾に付き合っている人がいたし、両親もまだ若かった私を日本に行かせるのを心配し、また経済的な理由もあって、残念に思いながら行けなかった⁶。大学を卒業後、母校の大学の大学院にも、修士の2年生の時に1年間日本に留学する機会があると知っていたので、進学して今度こそ絶対に日本へ留学に行行って夢を叶えようと決心した⁷。
- ② 学部生の時は日本で勉強していた⁸ので、台湾の大学院に進学した当初は院の段

⁵ ただし①の対象者は、録音機械の故障により録音できなかった。

⁶ 実際に行ったクラスメートの日本留学についての話を聞く度、悔しさや後悔というような気持ちを抱いて、日本に留学に行きたいという信念がますます深まった。

⁷ おまけに修士1年の時は、留学に行くためのお金をためるため、アルバイトをしていた。

⁸ 小学校の時、日本の漫画が好きだった。また、日本の姉妹校の学生と交流したこともあつ

階でまた日本に行こうとは思わなかった。しかし、修士1年の春に、交換留学生として日本に1年間行くチャンスがあると知り、家族の勧めで行こうと思うようになった⁹。

- ③日本のアイドルが好きで、日本語学科に入った1年目の時には日本留学にあこがれていた。2年生になったら、そのアイドルがあまり好きでなくなったので、留学する情熱が冷めてしまい、どうでもよくなった。しかし実際に日本に留学に行く前の3年生の時、母親の勧めでやはり行くことにしたのである。
- ④こちら（台湾）の日本語学科に入って1年目の時、3年生になったら交換留学生として日本に行くチャンスがある、と聞いた時から行こうと思っていた。
- ⑤大学2年の時、3年生になったら日本の交流校に短期留学に行けることをはじめて先生から聞いた時に応募してみようと思った。その前に夏休みの間の2週間ぐらいの研修団にでも参加するかも考えたが、ただの遊びでは大した勉強にならないのに対して、交換留学生としてより長期間日本に行けたら学びたいことが学べるだろうと思い、留学することを決めた。
- ⑥こちらの日本語学科に入れると知らされた時、姉の友達に、多くの日本語学科には交換留学生として日本に行く制度が設けられており、できれば絶対にそのチャンスを掴むようにと勧められた。その時から日本に留学に行こうと思っていた。
- ⑦大学1年の時、先輩から、うちの学科では3年生の時、交換留学生として日本に行く機会があると聞いた。その時、行こうという気持ちが芽生えた。
- ⑧高校の時から日本のアイドルがけっこう好きになり、大学では日本語学科を志望し、将来いつか日本に留学に行こうと思った。
- ⑨大学の時、交換留学生として短期留学に行こうと思ったが、親があまりに心配したため行けなかった。今回は（台湾の）大学院も出て、ちゃんとした大人になっているから、以前の夢を叶えようと思い、去年（2010年）の10月頃から具体的な手続きをしはじめるようになった。
- ⑩専攻が日本語なので、大学時代からずっと日本留学を願っていた。
- ⑪約1年前からである。
- ⑫去年（2010年）の9月である。
- ⑬1年半前からである。

たので、日本に好感を持っている。大学に進学する頃、専攻だった会計の勉強に置いて、たまたま日本にいた友達に誘われて、なりゆきで日本の大学に行くようになった。

⁹ ちなみに、家族が勧めた理由には家族が日本に遊びに行く時の便利さを考えたということもあるという。

⑭2007年である。

⑮昨年の夏頃に決めた。

すべての人は相当前から今回の留学を計画している。日本留学は留学生の人生における一大事だと分かる。

QB：留学に行く前に日本へ行ったことがあるか。（もしあるならば、日本にどのような印象を受けたか）。

日本に行くのははじめてかどうかを確認するための設問である。行ったことがある人については、日本に対する印象も留学の意思に影響を与えると思われるため、留学に行く前に日本へ行ったことがある人の日本に対する印象も把握する。

①留学に行く前に日本へ1回だけ行ったことがある。修士1年の時、すごく可愛がってくれる姉がハネムーンで北海道へ行くのについて行ってしまった。短い5日間だけの旅行だったが、素晴らしい環境にすっかり魅了され、そこにいる間はなんとなく落ち着いていて、台湾に帰りたいなくなっていたほどだった。

②大学4年と日本語学校2年のあわせて6年間日本にいた。日本人がとても親切にしてくれていた。日本人の仕事への態度、真剣さ、そして教育観などを評価しており、感服もしている。

③いや、留学に行った時がはじめてだった。

④いや、1度もなかった。

⑤いや、ない。留学に行く前には外国へ行ったことさえない。

⑥小学校5、6年の時と、大学1年が終わった夏である。大学生の時には夏休みを利用してクラスメートと2人で大阪にある日本語学校で1ヶ月勉強していた¹⁰。日本はテレビや雑誌で見て“想像”していたイメージとあまり変わらなくて、きれいだった。

⑦いや、1度もない。日本に対する印象は主にテレビから得たものだった。

⑧中学1年が終わった時、5日間のツアーに入り、日本を旅行した。ディズニーランドが面白かった。そして、大学1年が終わった夏休みには2週間ほど東京にある姉妹校での研修活動にも参加した。将来の日本留学の“予習”のような気持ちで電車の乗り方などを覚えた。

⑨小学校と中学の時1回ずつ行ったことがあるが、日本についての印象は相当あやしくなっている。

⑩はい。きれいだと思った。

⑪ある。まず、日本はとてもきれいだと思った。そして、日本人はみんなちゃん

¹⁰ 大阪で働いているそのクラスメートのおじさんのうちに泊まっていた。

とルールを守っている。

⑫ある。悪くなかった。

⑬遊びに行ったことはある。日本は各方面で非常に進んでいるという印象を受けた。

⑭ない。

⑮はい。その時は東京しか行かなかったで、韓国と似たような感じがした。

留学に行く前に日本に行ったことがあるという人が大半である。彼らがその時に受けた印象は総じてよいものであったようである。一方、留学に行く前に、日本に行ったことがない人も相当いる。

QC：今回はどういう気持ちで日本に留学に行ったのか。

この質問を通して、留学生の今回の留学の基本姿勢を明らかにしたい。

①日本留学はずっと前からの夢だったので、どうしても行きたいという気持ちで行ったのである。でも、実は（2010年）9月に日本に着いたはじめての日に親との電話を切った後、はっきりした理由もないのにしばらく泣いていた。もっとも翌日からは元気になった。が、カルチャーショックかホームシックか、日本に行って2、3ヶ月の頃は、ものすごく台湾に帰りたいかった。その時は、台湾で勉強していた頃は日本のいい面しか知らなかったなあと考えた。たとえば、台湾では日本人の先生が親切にしてくれていたし、われわれも積極的に日本人学生に友好的に接していた。しかし、自分が日本に来たら、何でうまく日本人の友達が作れないのか、と思い、溶け込みたいのに、冷たくされていたような気がしてしょうがなかった。今ホームシックにかかっていた頃の私を振り返ってみれば、自分が日本人学生の目に“外国人のお姉さん”と映っているのではないかなどと意識しすぎていたのかもしれない。でも、今はもうすっかりカルチャーショックを乗り越えている。

②また改めて日本の生活を体験したいと考えたので今回留学した。

③（遊びに行きたいという）期待はあったが、それ以外に特別な気持ちはなかった。

④ずっと前から日本の生活を体験してみたかったので、期待していたが、授業をはじめ何もかも日本語でやり取りをしなければならなくなるから、緊張していた。また、創価学会の会員なので、創価大学にも行ってみたかった¹¹。

¹¹ ちなみに、小さい頃（マレーシアにいた頃）から池田会長の著書（の中国語訳本）を読んできていたから、いつか原典の日本語が読めたらという希望もあり、日本語学科に進学した。

- ⑤全く知らない環境に少し緊張していたが、期待はしていた¹²。
- ⑥前に行った時と異なり、比較的時間が長い留学なので、クラスメートと下宿したりして、より多くのことが学べるだろうと楽しみにしながら出発した。1年半前に大阪で暮らしていた1ヶ月が今回（3年生）の留学の新鮮さを減らすことはなく、もっと多くの時間を日本で過ごしたいという意欲を強めた。
- ⑦言葉がちゃんと通じるかどうかという不安があったが、日本ででの生活にはとても期待していた。
- ⑧日本ででの生活に対する期待でうきうきしていた。
- ⑨家族や友達からの反対の意見もあったが、もう年だし、半年も前から丹念に準備してきたから、思い切って行くことにした。
- ⑩博士課程に進学したくて、日本に来た。
- ⑪ちょっと怖い。しかし、日本を信じている。
- ⑫日本人の友達を作りたい、日本語を上達させたい、という気持ち。
- ⑬（地震前）楽しみにしていた。日本で日本語力を上達させるため、留学を決意した。
- ⑭憧れと、アニメの名探偵コナンが見られるという期待を抱いて来た。
- ⑮もっと日本語をうまくしゃべれるようになりたいという気持ちと、友達を作りたいという気持ちで来た。

全体的に見て、今回の留学に関しては、新しい環境への不安、緊張はあるものの、それ以上に期待や何かを身に付けたいという気持ちが大きかったことがうかがえる。

また、前問（QB）の回答と照らし合わせると、日本へ行ったことがある人は、日本に対する印象がよかったので、また行きたいという気持ちを持って今回の留学を決めたのに対して、今回の留学がはじめての人は今回の留学に対して大きな期待を抱いていた、というようなことも分かった。

QD：地震当時の様子を聞かせてください。当時はどういう気持ちだったか。何を考えていたか。

（地震当時台湾にいた者に「D：地震のことを聞いた時はどういう気持ちだったか。何を考えていたか。」）

留学生の地震発生当時の感覚は本研究の主題である「東日本巨大地震が留学生に与えた影響」に最も関連の深いものと思われる。

- ①地震前の1週間に一時帰国していた。友達のうちにいた時ふっとNHKを見た

¹² 日本人の友達を作ったり、思う存分日本で買物したりすることを楽しみにしていた。

ら、地震のニュースが入った。驚いて、日本と台湾とのニュースを交互に見ていた。しばらくしたら、山形の友達と連絡が取れて、確かに揺れていたが、みんなが無事で、寮も壊れていないと聞いて安心した。だから、最初は事情がそんなに深刻だとは思もしなかった。また、内心日本をすごく信頼し、問題が起きてもそのうちスムーズに解決されるだろうと思っているのである。

- ②昼寝をしていた。実は3月11日の約1週間前より何回か地震があり、日本はもともと地震の多い国だから、とくに気にはしておらず、目が覚めたが続けて寝ようと思った。しかし、同じ寮に住んでいた台湾人留学生が慌てて私のところに来て、大変なことになったと怖がっていた。確かに停電もしていたが、私は2回目ぐらいの大きな余震に襲われてきた時になってはじめて大変さを認識するようになり、パスポートや財布を持ち、友達と寮のロビーに移動した。3月の寮に留学生は多くないが、その時はほとんど全員ロビーにあつまっていた。暗くなっていく中、日本人の友達のご両親が持ってきてくれた暖かい簡単な料理はおいしかった。やっとつながった台湾人後輩の携帯で、今回の地震は大規模なものだとテレビで伝えられていることが分かった。雪のおかげで¹³かすかに外の様子が見えたが、みんなの不安は高まっていた。朝になって、友達と歩いて20分ほど離れた大学に行く途中、こういう時こそ人間はみんな平等だ、いくら金があっても同じなんだろうなあと思っていた¹⁴。

- ③地震が起きたのは日本留学に行った3日目であった。地震当時は一緒に留学に行った友達と東京の池袋にいた。最初の時はどうせすぐとまるだろうと思い、とくに怖くも心配でもなかった。地震が再び来た時、ちょっとひどかったので、みんなと屋外に出た。引率の先生に電話してみたが、つながらなかった。でも、停電もしていないし、せっかく遊びに来たのだから、日本の繁華街をぶらぶらしようと思った。しばらくしたら、先生から先生の泊まっていた池袋のホテルに集合するよというメールが入った。留学生全員がホテルにあつまっただのは夕方だった。テレビで東北の津波などのことを見てはじめて、ことは大変だと分かった。そして、台湾にいた家族とも連絡が取れて、台湾でもものすごい大事件としてニュースが流されていたと知り、少し不安な気持ちになっていた。
- ④電子辞書を買うため、一緒に留学に行った友達と東京の池袋にあるビッグカメラに行った。地震だと最初に気付いた友達の言葉をみんなは真剣に扱わなかった。しかし、しばらくすると、さすがにひどくなってきたので、店員が客を外

¹³ 今考えてみたら、今年の日本の天気はいつもと違っていた。

¹⁴ ちなみに、同行の台湾人留学生は、管理人さん、学校、日本政府は何でもやってくれないか、やってくれるべきだと不安、不信、そして不満を繰り返し口にしていた。

に出して避難措置をとった。マレーシアでは地震は全くないので、これぐらいの地震がどのくらい大きいのかピンと来なかった¹⁵。夜みんなが引率の先生が泊まったホテルに行って、テレビを見たら、巨大地震だということがはじめて分かった。おまけに、その夜はほとんど絶えることがない救急車のサイレンの音にかなりのプレッシャーを感じた。翌朝寮まで送ってくれていた先生は放射能漏れの心配があるのでできるだけ出掛けないようにとみんなに言い付けた。地震の日に近くにいたのは幸いであった。そうでなかったら、地震に対する怖さが違っただろう。

- ⑤店にいた。最初は店の棚が揺れているのかと思ったが、まわりをよく見たら地震だと分かった。いっぺん店の外に出たが、地震がおさまったので、また店内に入った。2回目のもっとひどい地震の後、店の人は私たちを外に出した。外には人が多く、閉めた店もあった。確かに大きい地震だったが、同じく地震が多い台湾なら閉店することはないと思った。同行の6人の中には、私より怖がっていた人もいれば、大らかで呑気な人もいた。やっと見つけた営業中のマクドナルドに入ったら、人が一杯だった。マクドナルドにいた時、台湾の姉の、日本の地震について尋ねるメールが携帯に入った。暫くしたら、お店が営業は6時までだという知らせを出したので、私たちもそろそろ千葉にある寮に帰ろうかと思った。駅に着いて初めて電車が走っていないことを知り、どうして外に人がこんなに多くいるのかがやっと納得でき、店の人が屋外に置いていたラジオで、かなり強い地震だったことも分かった。途方に暮れていたところに、やっと先生と連絡がとれたので、先生のところに行った。テレビで改めて、大地震であり、津波をも引き起こしているという非常に深刻な事態であることを知らされた。地震当時はさほど怖い思いはなかったが、テレビで具体的な数値や映像をこの目で見てから、その後の余震が怖くなった。
- ⑥池袋の店で電子辞書を選んでいた。地震だと気付いた時にはとくに気にしていなかった。2回目の地震が大きかったので、友達と外に出た。でも、せっかくにぎやかな町に来たから、やはりショッピングしたいと思った。たとえ当時外に人が大勢いて、閉めた店も多くても、大変な状況であるということはほとんど意識していなかった。
- ⑦日本に行って3日目に地震にあった。地震当時は友達と池袋の店にいた。最初の時は、確かにひどかったが、いっぺん店を出て、とくに被害はなかったので、

¹⁵ とはいえ、その後すぐ携帯で無事だというメールをマレーシアにいる母に送った（台湾であった小さい地震の時にはそのようなことをしなかった）。

また店に入って、買い物が続けようと思った。中国語のできる店員さんの、日本は長い、このようなひどい地震ははじめてだったというような話を聞いていたら、また地震が起きた。その時こそ事態が深刻であったようで（じっと立てないほどだった）、店を出てから、もう入れないようにされた。

- ⑧当時台湾のうちにいた。台湾のニュースより、直接日本のを見た方がいいと思い、NHKを見た。津波などの映像にかなり驚愕し、留学に影響を与えるかと心配したが、日本（留学先の京都）にいる友達に聞いたら、京都にはとくに異状はないと聞いた。
- ⑨実は地震が起きたその日の朝、台湾から荷物を船便で日本に送ったばかりであった。午後不意にインターネットで地震のニュースを見たが、とくに気にはしていなかった。夜テレビを見たら、かなり深刻な状況だとはじめて分かった。
- ⑩当時は台湾にいた。ニュースを見てびっくりした。
- ⑪YAHOOのニュースに地震とだけ書いてあったため、最初はそんなにひどいとは思わなかった。日本は台湾より建設技術が進んでいるから、ただの地震なら、絶対大丈夫だろうとも思ったが、結局、津波も発生し、原発事故にもなって、さすがに怖くなった。
- ⑫地震発生当時は台湾にいて、揺れを感じなかったが、新聞を見て、ひどい事態に驚いた。大阪の様子を心配して、大阪にいる友達に被害の状況を聞いた。
- ⑬交流協会から留学ビザをもらって家へ帰る途中で、地震の知らせの電話を受けた。地震当時は台湾にいたので大丈夫であった。
- ⑭これは本当のことなのか。こんなひどいことが本当に起こったとは信じられなかった。
- ⑮当時は、韓国にいた。さすがにちょっと驚いた。無事に日本に行けるかどうかも疑わしい気持ちだった。

台湾人の場合は最初の時そんなに深刻だと思わず、ニュースなどを見てはじめて事情が大変だと認識している。それは台湾も地震が多い国で、台湾人にとって地震に対する無知からくる怖さはほとんどないからであろう。しかし、今回の地震（津波などを含め）が本当に大規模なものであると確認してからは、さすがに恐怖を感じているようだ。

QE: 大きな地震だと知っていて、留学をやめようと思ったか。

大きな地震だと知ってからの、今回の留学に対する意欲について質問する。

- ①自分は全くそのような気持ちはなかった。が、地震の約3日後に、福島原子力発電所における放射線漏れなどが心配だということで、こちら台湾の大学の先生から、安全のため留学の続きを慎重に考えてほしいという電話が入り、また大

学も、もし台湾に戻った時には授業や試験などに対応できるように素早く備えてくれていた¹⁶。しかし、私はたとえこちら台湾の大学院をやめても日本留学を続けたいと思った。

- ②地震の1日半後電力が回復した。そして近くに国際電話が掛けられる公衆電話があると知らされ、直ちに台湾にいる家族に電話した。留学を中止するかどうかの話になると、主人は私の意志に任せるという意見だったが、母は早く帰って来いと強く勧めた。私は迷ってしまつてすぐに決められなかった。13日に、地震の影響に鈍かった私は友達に誘われてスーパーに買い物に行き、地震のためこれからは通常通りに営業できないことのお知らせが張っており、冷凍・冷蔵食品をはじめ空きっぱなしの棚が多いことに驚いた。当面帰国するつもりはないので、私は一万円前後も買い物をしてしまった。一方、月曜に母は（台湾の）大学に電話を掛けたい¹⁷。火曜日に学科の先生から17日の帰りの旅券がすでに取ってあるから、とりあえず先に帰国した方がよからうというメールが来た。そこまでしてくれているのであれば、いっぺん帰ろうと思い、荷物をまとめはじめた¹⁸。

- ③最初は、日本人はこのような地震には慣れているだろうと思い、まさかこんなにひどい状況に陥るとは思いもよらなかった。だから、留学をやめるという考えが頭に浮かぶことはなかった。

- ④最初はまさかこの地震で留学を中止しなければならなくなると思いもしなかった。でも、引率の先生がもしかしてそのようなことになるかもしれないと言っていたから、一応心の準備はあった。

- ⑤確かに電柱が傾いたり、キャンパスの地面が液化したりしていたが、自ら留学をやめることについてはとくに考えていなかった。最初は別の大学の学生からそのような可能性があるという情報が入り、私たちは台湾にいるクラス担任の先生にskypeで聞いてみた。先生は最善の方法をとると言い、私たちを安心させてくれた。

¹⁶ 台湾の学期は2月からとなっている。

¹⁷ 実は、母はそうするだろうと思いついたので、学科に電話するかと頼んでおいたが、母はやはり私のことを心配するあまり、学生課に電話を掛けた。

¹⁸ 2010年秋の留学開始以来買っていた家具やパソコンなどを管理人さんのところに預かってもらったまま、（一晚寝ずに）16日未明他の留学生たちを含む8人と雪の中を出発し、百人以上の行列の末、鶴岡、新潟を経由して羽田より帰国した。台湾人留学生のうち2人は空港で携帯の契約を中止したので、もう山形に留学に戻ることはないと考えられるが、私はすでに再入国許可証を持っており、留学についてはまだ決められていなかった。ちなみに、たとえばオランダ人留学生はオランダ政府に強制的に日本の東北以外の“安全なところ”に行かせられた。タイの2人の留学生は山形に残ることにした。

⑥そこまでは考えていなかった。

⑦いいえ、地震当時いた池袋も、下宿の千葉も大した被害はないし、留学をやめるまでひどいとは全く思いもつかなかった。地震以降の数日、ニュースを見て心配している親から、先に台湾へ帰ってしばらく様子を見て、また留学を続けるかどうかを考えたらどうか、という勧めはあったが、私自身はせっかく日本まで来たので、このまま帰国したくないと思った。

⑧確かに悩んでいた。祖父母は何回もうちに留学なんかやめるようにと電話を掛けてきていた。(台湾の)大学が日本の状況を説明して¹⁹からの1週間は、毎日一日中また日本に行くかどうかを考えていた。

⑨確かに迷いはあった。

⑩家族に何度も止められてやめようと思ったが、継続した。

⑪いいえ。

⑫いいえ。予定通り出発しようと思っていた。

⑬やめようと思った。

⑭いいえ²⁰。

⑮いいえ、私が行くところは大丈夫だと聞いたので、行こうと思った。

ほとんどの学生は留学をやめることまで考えた。学生(または家族)が最も心配しているのは何と言っても放射能のことである。

QF: 留学の「中止」または「継続」を決めた主な理由は何か。決定的なきっかけなどがあるか。(たとえば家族の希望、一緒に留学の友達の意味、地震への怖さや不安など、何かがあったら教えてください。)

今回の留学に対する意欲が芽生えてから、留学を継続するか中止するかという、何らかの結論を出すに至るまでの間に、留學生の考えに今回の地震がどのような影響を与えたか、また、どのような葛藤があったのかといった心理変化を捉えた。

①父親をはじめ、先生、友人、反対した人はもちろんいっぱいいたが、姉は肩を持ってくれて、母も日本にいい印象を持っており、好きなようにしていいと支持してくれた。私はやっと叶えた夢を中途半場に終わらせてしまいたくないから、日本に帰って1年間の留学を予定通りに遂行しようとした。

¹⁹ 京都は東北から離れているため、また日本に戻るかどうかを私たち自身に決めさせた。ちなみに、一緒に行った4人の学生は、とくに互いに相談したわけでないが、全員日本に戻ることにした。

²⁰ 2010年から2011年3月まで(神戸大学の)研究生として1年間勉強して、今年(2011年春)の入学試験に受かった。

- ②台湾の大学の対応は早かった。18日には履修したい科目がすぐ履修できるようと手配してくれていた。私は母の希望に応え、帰国して、台湾の大学で今学期を送ることにした。
- ③ほんとうに恐怖感を感じたのは福島原子力発電所が爆発したと聞いた時からだった。おまけに、両親は台湾から何回も留学なんかやめて帰ってこいと電話してきていた。親に心配させたくないから、帰国することにした。また、その後、交流校が留学生を全員帰すと決めたから、これでたとえ残ろうとしても残れなくなった。帰国の前日、みんなでずっと行きたかった渋谷に行ってきた。
- ④交流校の留学生全員を帰すという決定で仕方なく台湾に戻ったが、もし自分の意思で決められたら、日本にすることにしたに違いない。創価学会に連絡し、何かの手伝いをする希望を申し出るかもしれない。家族も、地震ぐらいなら私に台湾に帰ってほしいと言わないだろうが、放射能漏れが不安だから帰った方がいいと主張した。
- ⑤私の父は、ただ国際電話で無事でよかったと言ったぐらいだった。我が子のことが大変心配で一日も早く帰してほしいと学校に訴える親もいたようで、何と言っても交流校の留学生を帰すとの決定が私たちの帰国を促した。余震や放射能が怖くて早く台湾に帰りたいという考えを持っていた同期の留学生からの影響も当然否めない²¹。
- ⑥何と言っても両親がとても心配していたからである。地震以降の数日の間、何回も日本に電話を掛けてきた。地震後の2、3日は、放射能漏れで騒がれたため、親の心配がピークになった²²。そして同じ頃、私たちを帰すという交流校の決定にしたがい帰国するようになった²³。日本に来たばかりで、いろいろ計画していたことがやり遂げられなくてくやしいという気持ちは多少あった。
- ⑦大学の決定だからである。やむを得ずしたがわなければならない。もし自分で決められたら、留学を中止しなかったと思う。
- ⑧もともと1年間の予定だったので、中途半端で終わってしまえばくやしい思い

²¹ 私は余震も放射能も怖かった。まわりにはとくに放射能に汚染されたら奇形児が生まれるととても心配している友達がいいた。したがって、私たちは出掛ける時には必ずマスクをしていた。日本にいた時には主に日本のニュースを見ていたが、台湾にいる友達は台湾で報道されたニュースを、フェイスブックなどインターネットを通して私たちに送っていた。両者を比較してみたら、台湾の方で大げさに報道されていたような気がした。

²² 友達の親もうちの親と同じぐらい自分の子供の安否を案じていた。しかし、私自身は地震当時の池袋や、下宿の千葉では大きな被害がないように思い、よく気を付けたら大丈夫だろうと思った。

²³ できればもう少し日本に滞在したいと引率の先生にお願いした留学生もいたが、許可を得られなかった。

が残るだけだから、やはり日本に戻り、留学期間の終わるまでいようと決意した。最初に支持してくれたのは父である。母は最初はとても（とくに放射能のことを）心配していたが、後は私の意志を尊重し行かせるようにしてくれた。このような両親の意見に非常にありがたく思っている。

- ⑨行き先が関東なので、最初は大丈夫だろうと思ったが、放射能漏れが確認された後、かすかな不安が湧いてきた。しかし、インターネットで直接日本が公表した放射能に関する情報（数値など）をチェックしたら、どうも台湾で流されていたニュースほどひどくないように思った。家族とじっくり相談した上、親の“任せる”の一言で、さっき述べた年のことと、長く計画を立ててきたことを考え、予定通りに日本に赴いた²⁴。
- ⑩奨学金の試験も通ったし、入学試験にも合格したし、今回あきらめたら、もう2度と機会が訪れないと思って、継続を決めた。
- ⑪日本留学はずっと私の目標でもあり、夢でもあったので、こんな理由で中止したくないと思い、予定通りに行くことに決めた。
- ⑫延期の理由：学校の方から予定通り開講する連絡が来たが、家族が放射能のことを心配して、航空券をキャンセルしてくれた。
- ⑬中止の理由は、家族が、放射能が危険だから行かないでほしいというからだ。もちろん行きたいし、留学先である大阪には友達もいるが、家族の意見を無視して行くことはできない。
- ⑭継続の理由：ようやく大学院に合格したのにあきらめたくなかったから。
- ⑮（無回答）

前述したQAでも提示したように、今回の留学をずっと前から慎重に計画してきた学生が多いので、初志を貫いて予定通りに留学を続ける人も少なくない。たとえやむを得ず留学をやめたまたは延期した人でも気持ちとしてはできれば留学を続けたいと思う人が多い。また、留学をやめるまたは延期すると決定した過程には、家族の意見が大きな影響を及ぼしている。

QG：留学を中止して帰国してからどう思うか。（日本に未練があり、留学の機会が失われたことが惜しいと思うか。それともほっとしたか。）（留学を継続した者に「G'」（放射能漏れ事件を含めて）地震後の留学生活をどう思うか。留学を続けても大丈夫だと考えているか、それとも常に余震や放射能漏れのことを心配しているか。）

留学に対する自分の決定（または止むを得ず選択させられた決定）について、

²⁴ ちなみに、埼玉に留学していた友達は皆荷物をまとめて帰国してしまった。

どう対処したかについての情報である。

- ①私も放射能やその他のことでいろいろ悩んだあげく、日本留学の継続を決めた。運命というのがあから、天に任せるしかないと思いながら、4月の末に山形に帰るつもりである²⁵。
- ②今回の留學生活が予定通り最後まで継続できないことに非常に惜しい思いを抱いている。とくにY先生の日本文化の授業がすばらしくて、後期も取るつもりだったからだ。
- ③ちょっと惜しいと思った。来たばかりで、遊びに行きたいところがいっぱいあり、まだ行っていないからである。
- ④非常に残念に思う。台湾に帰ってもう1ヶ月半以上もたち、中途に終わってしまった留学を思う度、涙が溢れる²⁶。実は私は小さい頃から、根気強く何かを貫くことはほとんどなく、今回の日本留学は自分にとってそのような最後まで頑張れない悪いくせをやめるきっかけとしての象徴的な意味合いもあるので、こんな形で留学が終わってしまったなんて、とてもくやしい²⁷。
- ⑤ちょっと惜しいと思うが、台湾に帰って家族や親友に囲まれているので、心が休まっている。しかし、先々週の間試験は大変だった。試験が終わってから、だんだん元のペースに戻った。
- ⑥帰国してから、すぐ中間試験にあたったので、ちょっと大変だったが、こちら台湾のニュースを見る度、地震後の日本の状況（とくに放射能漏れ）がますます深刻になりつつある²⁸のを感じ、帰ってよかったと思う²⁹。
- ⑦くやしく思う。とくに6月となった現在、次期の交換留学生に関するいろいろな知らせを見る度、そのような気持ちになっている。もし3月当時帰らなかったら、無事に留学を続けられたのと思う。
- ⑧放射能が気にかかり、外出する度にマスクをして、食料品の産地を確認してから買うようにはしているが、地震以来2ヶ月ぐらいたった今では、あまり地震、津波または放射能のニュースに気を配らなくなっている。

²⁵ 4月末に延期された授業開始にあわせるためである。しかし、実際には5月の上旬に再び日本に行った。

²⁶ ちなみに、インタビューの時にこの話になると、涙を見せていた。

²⁷ 今回の留学の夢が破れたばかりでなく、大学卒業後日本でアルバイトをしながらお菓子の勉強をしようというところまで計画を立てていたのに、それが今回の事件でどのくらい先になるかというようなことを思うと、焦ってきて複雑な気持ちになってしまう。

²⁸ 地震がもたらした放射能漏れや、停電、水道水の制限などが日常生活、さらに健康に悪い影響を及ぼしているらしい。

²⁹ 姉の話によると、私が日本にいた間は、母が毎日テレビニュースを見ていて、私のことを心配していたそうだ。

⑨3月22日に東京行きの飛行機に乗っていた。飛行機内も空港も空いていた。同席のおばあさんは、日本は今あんなひどい状況に陥っているのに、君はよく行けるなあと声を掛けた³⁰。日本に着いて、迎えに来てくれた中国人留学生にもあなた勇気あるねと言われた。でも、実際に生活してみたら、時々余震があったり³¹、出掛ける度にマスクをしたりする³²ぐらいで、大した不便や不安は感じていない。

⑩最初に来た時、不安だった。

⑪悲観的に言えば、運命だと思う。それほど怖くない。もし、深刻な問題が発生したなら、日本ほどひどくはないにしても、台湾にも絶対影響が及ぶだろう。また、日本は私たちが考えるより広く、被災地に行くわけではないので、今の段階ではそんなに心配していない。

⑫4月に行くべきだったと後悔している。10月までの半年間だけの仕事は見つからないので塾（補習班）で勉強するしかないし、塾での勉強がどれほど役に立つかも分からないからだ。しかも、もうすぐ30歳になる。

⑬残念に思っている。

⑭いいえ、自分の大学は福島から遠いので心配はしていない。

⑮いろいろ心配することもあるし、放射能については周りからいろいろなことを聞くので、日々の生活の中で気を付けている。

地震後しばらくたち、留学を継続している人は留学を楽しんでおり、自分の国にいた人は多少残念がっているが、基本的には学生たちはほとんど各自の生活のペースに戻っている。

QH: 帰国してからしばらくたった今、日本（地震後の放射能漏れ事件を含めて）についてどう思っているか。

留学を放棄した者が、帰国後母国から日本をどう見ているかを探究する。

①ぜんぜん気にしないというほどでもないが、地震以来日本と台湾と両方のニュースをこまめに見ている。どうも台湾では大変なものとして取り扱われているのに対し、日本ではさほどひどくないものとして報道されている感じがする。そして、私はやはり日本はいろいろな問題を必ず解決できると信じている。

②日本は単に運が悪かっただけである。たとえば先日放射能に汚染された水を海

³⁰ 同じ質問を返したら、いや私は東京経由でアメリカに行くのだと言われた。

³¹ 台湾にも地震が多いので、余震はとくに怖くない。1回だけ本当に大きな地震だと思うのがあったが、十数秒ぐらいでとまったので、それほど恐怖は感じなかった。

³² 私はもともと混んでいる電車が好きでないので、マスクをするのはちょうどいいかもしれない。

に排出したことについて韓国や中国大陸に非難されていたが、それはやむを得ない選択だった。そう強く責めることはないと思う。もし今回の事件が別な国で起きたら、日本より上手に対処できるとは限らない。官房長官は責任感があり、格好いいと思う。

- ③帰国してから、日本への未練が少し強まった。留学と言ってもほんとうはほんの数日しか行っていなかったの、台湾に帰ってきたらすぐ元の生活のペースに戻った。地震後1ヶ月以上もたった今は、他人事のようになってしまう、その地震のニュース自体をあまり見ないようになりつつある。
- ④日本はベストを尽くしたと思う。私は何も批判することはない。情報を隠すとか、日本政府は国民を安心させるために事情はそんなに悪くないとわざと言いつらしているというマスコミの声もあるかもしれないが、私はそんなことについて追究はせず、たとえ日本政府がほんとうに意識的に情報をコントロールしたとしてもそれにはそうするだけの原因があると思う。自分は、見えず、感じられぬ放射能に対しては、実質的な恐怖感はほとんどない。まだ日本にいた時は先生の言い付けでなるべく外出を控えたが、台湾に帰ってきて、そのような危険な状況から救出されたというような安心感もとくにない。
- ⑤日本人は慌てることもなく、秩序をよく守り、理性的だと思う。原子力発電所の対応についてはニュースによればそれほどよくなかったように見えるが、そういう専門知識を持っていないから、よく分からない。
- ⑥私が実際に見た地震当日とその後の数日の様子から、日本人（一般国民）は冷静であると実感している。原子力発電所のような専門性が高いことについては今でもよく分からないが³³、日本全体についてはとくに何も思っていない。自分が大学を卒業してから留学に行けるかどうかは気にかかる。さっき述べたように、大学で日本語を専攻すると決めた時から、日本留学を目指してきているから、大学1年の時、今回3年生の時の短期留学に続き、卒業後のより長期の留学を考えている。しかし、今回の事件で1年後の留学については父が躊躇っている。私も、もし卒業した時に日本の状況がまだ改善されていなかったら、行かないと思う。
- ⑦日本と台湾のニュースを両方見ている、日本政府の対処を完全に安心できるとは思わないが、地震当時日本にいて、日本人が慌てずに生活している様子を実感したから、自分はそう恐くないと思う³⁴。

³³ インターネットを通して地震、津波などの情報を見てみたが、たとえばいくつかの外国語で情報・避難に関する知らせが出されていることを知り、この点に関してはいいと思う。

³⁴ それに対して、地震当時台湾にいた友達は、台湾のニュースばかりを見ていたので、関

⑧日本政府は情報を隠したと聞いた。確かにそれはよくないが、非難されることを恐れるなどの理由を考えると、ある意味でやむを得ない選択だっただろう。

⑨—³⁵

⑩—³⁶

⑪分からない。日本政府の政策次第だろう。現段階までの様子から言えば、日本政府は危機意識が少し足りないと言えよう。

⑫前問（QH）で述べたように4月に行くべきだったと後悔している。

⑬阪神淡路大震災後の復旧の早さを考えると、今回もきっと早く元に戻ると思うし、そうであるように祈っている。

⑭—³⁷

⑮—³⁸

地震により起きた福島原子力発電所における放射能漏れの日本の対応について、台湾のマスコミで大きく取り上げられたのを見て、日本政府は何か隠しているのだろと思うながらも、国民に余計な不安をさせないという政府の立場を自分なりに理解してあげている人が多い。

QI：自分は「哈日族」（日本最賈）だと思うか。今はどうか。それはどうしてか。（日本の原子力発電所への対処を含めて）今回の地震で日本に対する感じ・態度が変わったか。（たとえば日本がうまく放射能漏れを止められないせいで、留学をやめさせられた、または台湾にいても放射能の脅威を感じるなどのようなことがあるか。）

留學生のそれまでの日本に対する親愛感は今度の地震で変わったかどうかを確かめる。

①自分はものすごい「哈日族」である。今回の事件は私の日本最賈の気持ちを少しも動揺させなかった。確かに今回の事件に関して日本の措置は遅かったが、いずれもとのペースに戻るだろうと確信しており、日本を責めたりはしない。

②そうだと思う。小さい頃から日本のことが好きで、日本留学の数年間カルチャーショックなしにいい日本人ばかりに恵まれていたから、今でも日本のことを全力で応援している。

③自分は「哈日族」（日本最賈）だと思わない。でも、今回の事件で、日本人の

東に行くのを恐れているらしい。

³⁵ 先述したように、日本で普通に生活している。

³⁶ 先述したように、日本で留学している。

³⁷ 先述したように、日本で留学している。

³⁸ 先述したように、日本で留学している。

親切さを実感し、日本（人）のことが好きになってきている。たとえば、福島原子力発電所のことについて全く知らない隣人に聞いてみたら、すごく丁寧に教えてくれたうえ、外国人の私たちを安心させようとしてくれた。ところが、前述したように、気にしていたのは何より放射能漏れのことである。実は日本に行っていた間、台湾で耳にした情報と比べ、日本は何か隠しているかのような心配はあった。また、先日汚染された水を大量に排出した日本には、やむを得ない手だと知っていても、もしすぐ隣国であれば怒りを覚えるだろう。しかし幸いに台湾にはさほど悪い影響を与えていないようだ。

- ④自分は「哈日族」（日本最真）ではないと思う。日本の物事またはアイドルに特別な感情を持っているわけではなく、ただ単純に日本語をよく勉強したいだけである。今回の地震でも日本に対する感じ・態度はとくに変わっていない。
- ⑤そうでないと思う。何でも日本がいいとは思っていない。が、日本の輸入品は放射能に汚染された恐れがあり危険だ、とも思っていない。今回の地震を経験して、日本に対する感じ・態度はとくに変わっていない。
- ⑥たとえば日本のアイドルのことを毎日口にしてしている友達と比べたら、私は「哈日族」（日本最真）ではないと思う。確かに日本料理が好きで、日本で生活してみたいと思っているが、日本の何かが特別に好きだというようなことはない³⁹。今回の地震で日本に対する感じもとくに変わっていない。
- ⑦日本に好感を持っているが、「哈日族」までにはなっていないと思う。今回の地震で日本に対する感じ・態度も変わっていない。
- ⑧はい、自分は「哈日族」だと思う。今回の地震で日本に対する感じ・態度が変わったのではなく、年をとるにしたがって日本のアイドルなどへの関心が減ってはいる。
- ⑨自分は「哈日族」（日本最真）ではないと思う。今回の事件について、日本の対応は理想的だとは言えないが、それで私の日本に対する感じがとくに変わったということはない。
- ⑩その通りだ。変わっていないと思う。
- ⑪いいえ、哈日族ではない。日本語を勉強した結果、日本に関することに関心を持つようになってはいるが、盲目的に好きになったりはしない。哈日族はファッション好きなイメージが強いが、自分はそんなタイプではないとも思う。また、日本人は台湾人ほど親切ではなく、冷たいイメージがあったが、驚いたこ

³⁹ でも、日本全体にいい印象を持っているのは確かである。また、そのような感情は大学に入る前からあったもので、それが日本語学科に進学した理由でもあった。

とに今回の地震で見直した。台湾では被災者を尊重しないきらいがあるのに対し、テレビで日本人が被災者たちに接する際、彼らを尊重しているのを見て、すごいと思った。

⑫はい。日本のものが好きだという気持ちは今も変わっていない。

⑬はい。変わらない。

⑭はい。その気持ちは変わらない。

⑮どちらかというと、中立だと思う。あまり変わったことはないが、むしろちょっと悪くなったかもしれない。それは、韓国でいろいろと日本のために、募金などの援助を行ったのに、そんな時期に、韓国の独島は日本の領土だという主張を教科書に載せた理由がまったく理解できないからだ。

自分はいわゆる「哈日族」でないと思う者が大半である。それで皆は冷静・客観的に日本を見ているようだ。今回の事件で日本に対する印象がやや悪くなったと答えたのは韓国の留学生1人だけで、ほとんどの者は変わらないと答えている。

QJ: 近々日本に行く予定があるか。(もしあるとしたら、いつ何のために行くか。心配はないか。)

今回の地震は世界においても一大事件で、日本の観光に大きな打撃を与えている⁴⁰。が、地震で留学を中止した人に「近々日本に行く」予定があるか、その気持ち・理由についても聞いてみる。

①4月末に山形に後半の留学に行く予定である⁴¹。

②今学期が終わってから、まだ行ったことのない北海道へ家族と遊びに行きたい。またお世話になった日本人の友達にも会いたい。

③夏休みに姉と大阪に旅行に行く予定である。姉は日本が大好きで、行けるのはその時期だけだからである。大阪なら福島とはけっこう離れているから放射能の影響はあまり心配していないが、余震はちょっと気に掛かる。

④いや、ない。短期間の休みを利用して遊びに行くのと長期間の留学とは違うからである。経済的な余裕ができれば短期間の遊びも悪くないけれど、私は外国で生活するのが好きなので、長期的に住んでみる方がもっと魅力的である。

⑤まだ決めていないが、夏休みの卒業旅行の行き先に東南アジアや日本が入っている。ほんとうに行くとしても東でなく西日本へ行くだろう。私は今回の留学

⁴⁰ たとえば「地震 観光地に打撃 計画停電 宿泊キャンセル相次ぐ」(2011年3月17日『読売新聞』)、「観光業界「死活問題だ」 第一原発 レベル7、県内に衝撃＝福島」(2011年4月13日『読売新聞』)、「[被災地から] 震災3か月(3) 原発風評、観光地に直撃(連載)＝茨城」(2011年6月15日『読売新聞』)など。

⁴¹ 4月末に延期された授業開始にあわせるためである。しかし、実際には5月の下旬に再び日本に行った。

にきれいなピリオドを打つ意味もあり、日本に一票を入れたい。

⑥ 近々日本に行く予定はない。次に行くとしたら、卒業後の留学だろうと思う。

⑦ はい。夏休みを利用して、親しい友達と卒業旅行として関西に行くという話になっている。

⑧ いや、ない。

⑨ —⁴²

⑩ —⁴³

⑪ 5 月に出発する予定である。目的は留学で、留学先は名古屋である。最も心配なのはやはり原発の問題である。これからどう改善されるのか分からないが、しばらくの間は、災害から復興できないと思う。

⑫ お金があれば、(10 月の留学開始よりも前に)行きたい。10 月には名古屋に留学する予定である。心配することはないと思う。自分は別に気にしていないが、周りの人はみんな心配してくれている。

⑬ 10 月の様子を見て決める。もし行くとすれば、留学のために、心配はやはり放射能の問題である。

⑭ —⁴⁴

⑮ —⁴⁵

留学をやめた人はみんなまたいつか日本に行く予定がある。早ければ地震後数ヶ月の夏休みにでも行くが、福島に離れているところなら大丈夫だろうという人も何人かいる。つまり、福島は福島で、そこから離れた日本の別のところは安全だと思われる。

QK: 日本はこれからどうなると思うか。

今回の事件で日本全体はどうなるかをまとめて予想してもらおう。

① 今回の放射能漏れの事件を含めて日本を非難する気はない。むしろ従来の日本人の真面目さや勤勉を尊敬していて、バブル崩壊後のもう 1 つの“消える 10 年”になるかもしれないが、回復は必ずすると思う。

② 私はやはり日本の力を信じている。日本はよくなるに違いない。

③ そのうち (3 年ぐらいで) 立ち直れるだろうと思う。というのは長い不景気を経験していた日本は今でも健闘しているから、その民族性による強さを信じて、

⁴² 日本に来て半年ぐらいしたら、大学院に行くと思うが、今はまだ研究計画について思案している。

⁴³ 日本に来ている。

⁴⁴ 日本に来ている。

⁴⁵ 日本に来ている。

回復する力を持っていると思う。

- ④台湾に帰ってきて間もなく中間試験だったので、あまり気持ちの整理ができなかったが、日本人の負けず嫌いの性格を考えると、それ以前の状況に回復するまで10年もかからないだろう。しかし5、6年、もしかしたら7、8年必要かもしれない。
- ⑤1年か2年、もっと長くなるかもしれないが、回復するまで時間が必要だと思う。でも、日本人の万事に慎重な態度だったら必ずいつか元のように戻らるだろうと思う。
- ⑥回復するまで少し（3、4年ぐらい）時間が必要だろうと思う。日本人は優れている⁴⁶からこれぐらいの時間があれば何とかなるだろう。
- ⑦日本は先進国だから、短い時間で回復するだろうと思う。留学先の近くの高校に通っている知り合いから、半年間別のキャンパスで授業を受けると聞いたので、日本全体の回復はその半年の倍の1年ぐらいあればできるだろうと思う。
- ⑧回復するまでせめて5年ぐらいは要るだろうと思う。
- ⑨日本人の真面目で負けず嫌いな性格から、2、3年ぐらいで回復できると思う。
- ⑩立ち直るまでの道はまだ長いだろうが、きっと復旧すると思う。
- ⑪日本は今まで多くの災害を乗り越えてきたので、今回もきっと乗り越えると思う。ニュースを見ると、日本は他国からの支援に頼らず、自分の力で復旧する政策を取るそうだが、他国の援助を素直に受け入れたら、もっと早く立ち直れるだろう。
- ⑫地震前のように回復するのではないか？日本は強い（すごい）国だから。
- ⑬きっと立ち直ると思う。
- ⑭早く復旧できると思う。95年にも神戸で大きな地震があったが、今では完全に回復している。今回はひどかったから、すぐには復旧できないだろうが、きっと大丈夫だと思う。
- ⑮何年間かはその地震のせいで結構苦労するに違いない。世界の経済大国というイメージがあるので、なんとか立ち直れるとは思いますが、過去のその地位はさすがに取り戻せないだろう。

ほとんどの人は日本の復旧を楽観的に見ているが、日本は昔の状態を取り戻すことはできないという意見も1人だけ（韓国留学生）あった。

⁴⁶ 別に学校で学んだのではなく、どこから来た印象かもよく分からないが、たとえば長い間の不況に戦い、今でも経済大国でいられることに関係があるかもしれない。

3、調査対象ではないが、地震当時日本にいた台湾人の意見

前節（2、インタビュー調査）で検討した 15 人の留学生の意見・感想以外に、地震が起きた時に日本にいた、留学生でない 2 人、交換留学生の引率の先生 1 人の意見も得た。また、交換留学生として日本にいたが、直接筆者からインタビューを受けたわけではなく、同じ大学に留学していた留学生経由で伝えられた意見（1 人）もあった。前記 QA～K の全ての回答が得られたわけではないが、彼らの意見も本研究の主題の参考になるかと思い、この節で取り上げる。まず、この 4 人の資料を提示する（表 2）。

表 2 地震当時日本にいた台湾人 4 人の詳細

番号	性別	年齢	日本に行った身分	専攻（及び主な日本語歴）	地震当時いた場所	情報を得たルート
(1)	男性	二十代前半	交換留学生（大学生）	体育（来日のためある程度日本語を勉強した ⁴⁷ ）	留学先（山形）	同じ大学に留学していた留学生
(2)	女性	三十代前半	ワーキング・ホリデー	2010 年 6 月に台湾の大学日本語学科卒	ワーキング先	E メール
(3)	女性	二十代前半	ワーキング・ホリデー	2010 年 6 月に台湾の大学日本語学科卒	ワーキング先	E メール
(4)	男性	四十代後半	交換留学生の引率の先生	日本で博士号取得・台湾の大学の日本語学科の先生	交流校の近くの東京	雑談

(1)すごい地震だった。地震が収まってすぐ同じ寮に住んでいる台湾からの留学生のところに行った。昼寝をしていた彼女は呑気であった。一緒にロビーにでも行き、みんなの様子を見ようとやっと彼女を説得したが、何で彼女はあんなに冷静でいられるかととても不思議だった。その後、台湾と連絡が取れて、ニュースも見られ、日本側は何かを隠していると思い、不安が高まる一方だった。なのに、留学先の大学はどうして私たち留学生を保護する措置を取っていないかと不満を漏らしたら、他の台湾からの留学生に聞きたくないと言われ、冷たい顔をされた。とにかく一日も早くこの危ないところを出て国へ帰りたいと思った。やっと帰国の希望が叶い、携帯も解約し、当面日本に来ることはないと思う。

(2)4 月下旬にはもう静岡にいますが、前の仕事は栃木であった。幸いに地震が起きる前にここに来ている。M さんは北海道の洪水に見舞われたところの近くにいらっしゃるらしい。後 1 ヶ月ぐらいで契約が終わり念願の帰国ができるが、ちゃんと最後まで勤めてこの 1 年間の契約にきれいにけりを付けたい。こちら（日本では）

⁴⁷ それに対して、英語は堪能である。

ほとんど毎日のように余震があり、アナログ TV の地震予知機能もしょっちゅう鳴っていて、本当に怖い。みんな地震がまた来るかと心配しているようで、とくに私たちは海に近いところに住んでいるから心配だ。

- (3) 前行っていた鬼怒川で未だに余震が続いているようだが、今は G さんと S さんと大阪にいるから、大丈夫である。T さんは 10 月まで静岡にいと聞いた。みんな無事でよかった。

- (4) 3 月 11 日の午前中は交換留学生を連れ、外国人が日本に滞在するための手続きをいろいろしていた。お昼は私が泊まっていたホテルの近くで食事を済ませ、若者が好きなこの繁華街で解散し、一人でホテルまで歩いて帰った。ホテルでしばらく休んでいたら、大きな地震が起きた。直ちに留学生に電話したが、なかなかつながらなかった。仕方なく、学生たちの携帯にメールを送ったが、どうも届いたのは数時間の後のようだった。やっと連絡が取れた学生に、どうせ帰りの電車がないので、私の部屋に来てもらった。7 人もシングルの部屋に入ると混んでいたが、地震が怖くて泣いた学生もいたから、みんなが一緒に行動した方が安心であろうと、狭い部屋で我慢していた。みんな揃ってテレビを見たら、津波などのことを知り、非常に大変な状況だと分かった。夜はベッドを学生に譲り、私は座ったまま寝ていた。翌朝、混んでいたが大学行きの電車に乗れて、学生を無事に帰らせた。こちら（日本）の大学と交渉してみたが、キャンパスに被害があり⁴⁸、留学生をどうするかについてはもうしばらく検討する時間が要ると言い渡された。私は台湾にも仕事がある⁴⁹ので、予定の日にならなければならなかったが、台湾にも他の担当の先生が日本の大学と連絡を保っているから、大丈夫であった。

4. おわりに

本研究における考察により、以下のことが分かった。

今回の地震はさすがに留学生の日本留学の意思を動揺させた。とくに「哈日族」でない人、大学での専攻が日本語でなかった人にそのような影響が大きい。しかし、日本留学が長い間の夢で、何らかの形で叶えたいという台湾人も多い。また、日本を信じ、回復を楽観的に見ている台湾人も多い。

ただし、今回の調査は、台湾人留学生が多く、その中でも日本語を専攻していた留学生が多いため、台湾人留学生または日本語専攻の留学生の意見を比較的強

⁴⁸ 建物にひびは入ったり、地面が液状化したりしている。

⁴⁹ 台湾の大学では 3 月は学期中である。

く反映していると思われる。しかし、少数ではあるが他国の留学生、及び専攻が日本語でない留学生の意見も、対照的に聞くことができた。更に今回インタビューを受けたこれらの留学生を対象とした追跡調査、またはより多くの人を対象とした調査をすれば、より興味深い結果が得られると考えられるので、それらを今後の課題としたい。

参考文献

- ・ 陳向明 (2002) 『社会科学質的研究』五南出版
- ・ 酒井亨 (2004) 『哈日族 なぜ日本が好きなのか』光文社
- ・ 村中雅子・寺下裕久美・陳明淑・遠藤宏子・持田ひろ子・田川麻央・蘇位静・西條剛央 (2007) 「共生日本語教育実習生は内省レポートをどのように体験しているか? : 構造構成主義をメタ理論とした修正版グラウンデッドセオリー・アプローチによるモデル化」『言語文化と日本語教育』33
- ・ 西條剛央 (2007初版 (2009初版5刷)) 『ライブ講義・質的研究とは何かSCQRM ベーシック編』新曜社
- ・ 工藤保則・寺岡伸悟・宮垣元 (2010) 『質的調査の方法』法律文化社
- ・ 独立行政法人日本学生支援機構「平成 22 年度外国人留学生在籍状況調査—留学生受入れ概況」<http://www.jasso.go.jp/kouhou/press/press101222.html>
- ・ 読売新報 (2011 年 3 月 11 日～) 『読売新聞』(ヨミダス歴史館 <http://www.yomiuri.co.jp/rekishikan/>)